



編集・発行
 児玉源太郎顕彰会
 〒745-0874
 山口県周南市公園区5854-41
 周南文化協会 内
 TEL. 0834-22-8190

印刷 (有) 精文社
 山口県周南市若宮町1-55
 TEL. 0834-21-1611

児玉源太郎顕彰会3年目へ

30年度総会開催

児玉源太郎顕彰会（小川亮会長）は、いよいよ3年目に入りました。

賓として出席した木村健一郎市長が祝辞を述べました。

30年度総会を5月26日、周南市文化会館3階展示室で開催しました。新年度は児玉源太郎とその時代を描いたDVDを制作し、次世代へ継承することや児玉源太郎の足跡を訪ねる台湾ツアーなどのほか、顕彰会が中心となって組織した「明治維新回想と顕彰」周南実行委員会への支援などを決めました。

総会には80人が出席。元徳山市長の小川会長が「児玉の生涯をたどり、彼が生きた時代とその業績を正しく理解し、後世に伝えていきたいと思います。今年は明治維新150年の節目で記念事業にも積極的に取り組みたい」とあいさつ。来



総会であいさつする小川亮会長

役員選任に続いて昨年度の事業報告と収支決算を説明、原案通り承認されました。会報「藤園」2号とニュースレター「本丁通信」2号と3号を発行、児玉源太郎の命日7月24日を「藤園忌」と定めて児玉神社と菩提寺の興元寺へお参りし、「藤園忌」にちなんだ茶会や俳句募集を行いました。会員は寄付金7人、団体会員31件、賛助会員52件・7人、個人会員401人の計83件・415人。

新年度の事業計画では、会報「藤園」3号とニュースレター「本丁通信」4号と5号の発行、7月21日に第2回「藤園忌」の茶会と邦楽演奏を周南市文化会館で、命日の24日は児玉神社で命日祭、

そのあと興元寺で供養、児玉家の墓前で児玉の漢詩を献吟。7月から9月まで藤園忌にちなんだ俳句を募集。新たな事業として児玉の生涯を描くDVD制作と児玉ゆかりの地を訪ねる台湾ツアーに取り組みことなどを説明、原案通り承認されました。

総会のあとはエコノミストの松下滋さん（元三和総合研究所取締役理事）を招いて設立2周年記念講演会を開催しました。「明治150年、先人に学ぶー児玉源太郎ー」と題して「児玉の冷静な局面



講演する松下滋さん

判断と状況を的確に読み続けた洞察力こそ私たちが学ぶべきこと」と力説されました。

新任の役員は次の通り。（敬称略）
 理事Ⅱ赤坂徳靖（赤坂印刷社長）
 卜部博文（トヨタカローラ山口会長）
 梶山正一（周南市コミュニティ推進連絡協議会長）
 佐伯哲治（新南陽商工会議所会頭）
 近間純栄（周南自動車センター社長）
 ▽幹事Ⅱ岡本大（徳山商工会議所青年部会長）
 近藤準（周南青年会議所理事長）
 永瀬昌宏（会員）

※平成29年度収支決算と平成30年度収支予算、第2回「藤園忌」命日祭と供養、茶会と邦楽演奏、俳句の入賞作品と表彰式、記念講演については別頁で詳細を掲載していますのでご覧ください。

平成30年度 収支予算書

【収入の部】

(単位:円)

科目	予算額	前年度 決算額	備考
繰越金	6,396,715	4,179,658	
会費	1,700,000	1,609,000	個人会費 ----- 団体会費 ----- 賛助会費
寄付金	2,000,000	2,700,000	寄付金
雑収入	100,000	276,827	会報「藤園」販売 ----- 利息
合計	10,196,715	8,765,485	

【支出の部】

(単位:円)

科目	予算額	前年度 決算額	備考
会議費	50,000	15,050	会場費等
通信費	250,000	233,613	切手・葉書 郵送代
消耗品費	100,000	53,923	印刷用紙・インク
印刷製本費	1,000,000	961,200	「藤園」「本丁通信」、封筒
備品購入費	50,000	0	
渉外費	50,000	20,000	慶弔費、旅費等
宣伝広告費	300,000	7,560	ホームページ
事業費	4,000,000	699,067	「藤園忌」催事、講演会、 DVD制作 ----- 明治維新150年記念事業支援、 告知板設置
事務局費	350,000	341,771	借上費、賃金、事務用品
手数料	40,000	36,586	郵便振替手数料
予備費	4,006,715	0	
合計	10,196,715	2,368,770	

◆「明治維新百五十年回想と顕彰」周南実行委員会◆

主な事業 ご紹介

- ◇ 4月22日 祐^ゆ綏^{すい}神社奉祝祭
同記念講演「徳山藩最後の藩主 毛利元蕃^{ともみつ}公」
- ◇ 9月23日 山口県周防部の史跡探訪バス
- ◇ 12月19日 明治の酒と食を再現「明治維新百五十年の宴」
- ◇ 通年 「明治維新百五十年回想と顕彰」小冊子発行

平成29年度 収支決算書

【収入の部】

(単位:円)

科目	予算額	決算額	備考
繰越金	4,179,658	4,179,658	
会費	1,700,000	1,609,000	個人会費 849,000 ----- 団体会費 40,000 ----- 賛助会費 720,000
寄付金	2,500,000	2,700,000	寄付金 2,700,000
雑収入	100,000	276,827	会報「藤園」販売 113,300 ----- 茶券 163,500 ----- 利息 27
合計	8,479,658	8,765,485	

【支出の部】

(単位:円)

科目	予算額	決算額	備考
会議費	50,000	15,050	会場費等
通信費	200,000	233,613	切手・葉書、郵送代
消耗品費	150,000	53,923	印刷用紙・インク
印刷製本費	1,000,000	961,200	「藤園」「本丁通信」、 封筒、会員募集チラシ
備品購入費	50,000	0	
渉外費	50,000	20,000	慶弔費
借上費	0	0	
宣伝広告費	300,000	7,560	ホームページ
事業費	500,000	699,067	講演会 60,864 ----- 「藤園忌」茶会 299,116 ----- 「藤園忌」命日祭・供養 86,470 ----- 俳句募集・表彰式・講演会 252,617
事務局費	250,000	341,771	借上費・賃金・事務用品
手数料	20,000	36,586	郵便振替手数料
予備費	5,909,658	0	
合計	8,479,658	2,368,770	

(収入) 8,765,485 - (支出) 2,368,770 = (残高) 6,396,715

「藤園忌」2年目へ
 児玉神社と興元寺へ

児玉源太郎顕彰会は源太郎の命日7月24日を「藤園忌」と定めて昨年初めて行事を催しました。今年は2年目です。児玉神社（黒神直大宮司）で命日祭、菩提寺の興元寺（金子清学住職）で供養を行いました。顕彰会の役員、会員ら25人が参列し、児玉源太郎の遺徳をしのびました。

児玉神社では拜殿で黒神宮司の祝詞が奏上され、小野英輔副会長らが玉串を捧げました。興元寺では金子住職ら一門の僧侶9人が本堂で読経をあげて参列者が焼香、続いて近くの児玉家墓地で児玉源太郎の遺髪塔を前に木本清美さん、清水利彦さん、石角繁隆さん、森谷京子さんと柴田具子さんの五人が児玉の漢詩を献吟しました。

小野副会長は「児玉大将があと10年生きていれば日本の運命は変わっていたのでは、いつも思います。彼は大きな人物でした。政治家としても優れたリーダーシップを発揮したことを後世に語り継ぎたい」と話しました。

児玉源太郎の命日については23日と24日の二つの説がありますが、児玉源太郎顕彰会では児玉家が24日を命日としていること、墓石に24日薨去と彫られていること、菩提寺が24日で供養を執り行っていること、などから24日を「藤園忌」と決めました。



児玉源太郎遺髪塔前で漢詩を献吟

「藤園忌」茶会と邦楽演奏
 350人が楽しむ

児玉源太郎顕彰会の活動を広げるために源太郎の雅号「藤園」にちなんで「藤園忌」を昨年から始めました。箏や尺八の演奏を聴きながらお茶を戴く茶会については顕彰会の事務局を置く周南文化協会の協力を得ました。茶道連盟（北出喜久栄会長）と邦楽連盟（澄田悦子会長）に積極的に関わっていただいています。

会場は周南市文化会館。昨年は初めてとあって和室で裏千家淡交会、隣の展示室で表千家周栄会が担当。今年から1年おきの当番制に切り替え、裏千家の27人と邦楽連盟の11人がお世話してくださいました。

気軽にお茶に親しんでもらおうと展示室でのテーブルとイスの立礼式で、訪れた人たちは主菓子「もらい水」と一服のお茶を味わっていました。顕彰会の小川亮会長も「藤園忌を盛り上げていただき感謝しています」とあいさつ。「一碗に心をこめし藤園忌」の即興句も披露されました。



お茶会



邦楽演奏

第二回「藤園忌俳句」募集

入賞作品決まる

児玉源太郎顕彰会は7月24日の「藤園忌」にちなんだ俳句を7月から9月にかけて募集しました。

「藤園」は児玉源太郎が書などに晩年使っていた雅号です。器量の大きな政治家、軍人として日本の近代化を推進した明治の偉人、児玉源太郎。ふるさとおいては私財を投じて私設図書館「児玉文庫」を作りました。文庫は明治36年から戦災で焼失する昭和20年まで42年間にわたり教育文化の向上に大きく貢献しました。現在の周南市立中央図書館の前身とも言えます。

大正12年創建された児玉神社や台湾から移植された記念樹「タイワンゴヨウ」の松、菩提寺の興元寺、生家跡の産湯の井戸、3年前に整備された生誕の地など、市内には児玉源太郎をしのぶ史跡があります。

募集した俳句は雑詠で「児玉源太郎に関すること」。1人3句まで。応募は122人、作品は347句でした。これを無記名清記のうえ、選者の宇多喜代子さん(「草樹」代表)、坪内稔典さん(「船団」代表)、久行保徳さん(「草炎」主宰)に依頼し、特選3点、入選10点、佳作18点の計31作品を決定しました。

入賞作品は次の通りです。

特選

藤園の詩書一幅や夏座敷
周南市 熊本 芳郎

とんぼうのあれは大将源太郎

周南市 石川 芳己

藤園忌文庫に落書きしたことも

周南市 伊藤恵美子

入選

緑さす源太郎像海匂ふ

周南市 木船 君枝

町名も公園も児玉蟬しぐれ

周南市 津森 敏伸

向日葵の高みに児玉文庫かな

山口市 山縣 愁平

大将のブロンズ像に小鳥来る

周南市 谷村 道子

源太郎に七男五女や花胡桃

山口市 吉次 薫

夏蝶やまるき児玉の蔵書印

大阪市 岡田満里子

子等遊ぶ児玉公園ジャカランド

光市 野村 邦子

新涼やチビまる子ちゃんと源太郎

寝屋川市 二宮ならみ

雲わきて児玉文庫に子等集ふ

川崎市 寺尾 雅子

墨跡の空涼やかに藤園忌

光市 松原 君代

佳作

蒼天に楷書でなぞる藤園忌

周南市 岡村たまえ

晩夏光児玉文庫の鉄錆る

光市 上野 昭子

児玉文庫の筆跡ゆかし今朝の秋

周南市 河村加南子

話すこと聞くことのあり藤園忌

下松市 武居 絹枝

海彦も山彦も来て藤園忌

山口市 重村 太次

藤園忌悪戯小僧神となり

周南市 永瀬 昌宏

藤園のまなざし澄みて水の秋

周南市 岡田 郁子

幼木の老木となる藤園忌

下松市 中川 房子

支那沢胡桃の大き緑陰母と子に

防府市 内田 和子

児玉源太郎の上のオリオンよ

京都市 林田 麻裕

手を合はす児玉神社の蟬時雨

周南市 山本礼以子

元帥の産湯の井戸に朴の花

周南市 中坪 光江

藤園忌台北駅舎に迷ひたり

周南市 河本 宏子

表札は明治のままや藤園忌

周南市 吉浦百合子

燈火親し元帥に未知多くして

周南市 木村しづを

少年はいつも全力児玉の忌

周南市 山根 志づ

ふり返る暖かき日々藤園忌

下松市 藤井八重子

故郷の児玉文庫で独楽回れ

周南市 向谷 静波

「第二回藤園忌俳句」講評

選者 宇多喜代子

明治維新から一五〇年というこ
とで、先年来その意義が語られた
り、否定意見が出たりしていま
す。そんな場に出くわすたびに私
の出身地が山口県だということが
知られ、ときに維新の志士のうち
だれが好きですかとやら、誰々を
どう思いますかとやら訊かれ、返
事に窮することがしばしばでした。

そんな折に、郷里の徳山で児玉
源太郎の忌日を藤園忌として、そ
れにちなんだ俳句の募集が始まり
ました。就中その選考の任に当た
ることになり、あらためて徳山の
みなさまの熱意を思い知らされた
ことでした。その忌日は七月二十
四日という暑いころです。いまだ
多くに知られていないこの日を

「藤園忌」として歳時記の忌日に
定着させるためには、今後、かな
りの日数がかかりそうです。その
ためにはまず根気よく句を発表し
つづけ、少なくとも県下の俳句を
愛好する作り手、読み手に「藤園
忌」をしつてもらうことです。

そのために肝心なことは、人口
に膾炙するに足るいい句をつく
り、それを宣布することです。

いまだ季語として行き渡ってほ
いないけれど、特定のエリアでは
れつきとした季語だと認識されて
いる、そんな季語がたくさんあり
ます。時に「地方季語」という言
い方をされますが、実績があれば
いつしか浸透してゆくものです。

「藤園忌」が季語となるための
第一歩は、「藤園忌」を生かした
い句を見つける土台となる句を公
表するところから開始です。幸い
二回目の今年、いい句が多く集ま
りました。

私が特選に推した、

藤園の詩書一幅や夏座敷

周南市 熊本 芳郎

も句の骨格のたしかないい句でし
た。この句の季語は「夏座敷」で
す。いわゆる季重りですが、忌日
を季語にする場合、このようなこ
とはよくあることです。いまだ
「藤園忌」が季語とはいえないと
いう理由からではなく、この課題
は「果たして忌日は季語か」とい
うところに辿りつきます。芭蕉の
時雨忌、子規の糸瓜忌、太宰治の
桜桃忌など忌そのものが忌日の内
実を伴うようになればいいのです

が、いまだその域に達していない
場合、この句の「夏座敷」を排斥
することはできないでしょう。

とんぼうのあれは大將源太郎

周南市 石川 芳己

選者の坪内稔典さんの特選句で
す。颯爽と飛ぶ蜻蛉と大將を重ね
るといふ飛躍のたのしい句です。

藤園忌文庫に落書きしたことも

周南市 伊藤恵美子

特選の三句目です。過去の悪さ
を思い出している句です。他の入選

「第二回藤園忌俳句」表彰式と

選者の坪内稔典さん講演

表彰式と選者の坪内稔典さんを

お招きしての記念講演会は10月7
日、周南市文化会館地下展示室で
開催、100人が参加しました。

坪内さんは「言葉の力ー源太郎

とみちおなど」と題して「俳句
はうそが大事。うそで現実よりも
素敵な世界が生まれる。想像の世
界が広がるのが俳句の魅力。藤園
忌のほかに源太郎忌という親しみ
やすい言い方があってもいい。こ
れからも児玉源太郎の新しいイメ
ージを俳句で表現してほしい」と
講演。地元出身の詩人まど・みち
おの作品も朗読しながら「言葉が
つながることで世界が広がってい

句や佳作の句も、のびやかで自在
でよかったと思えました。
どの句にも児玉源太郎への敬愛
の念と地縁に通じる愛惜が溢れて
いました。

緒についたばかりの「藤園忌」
が今後三回、四回、五回と回を重ね、
募集句から秀句が生まれるよ
うになればなにより、とその日を
楽しみにしております。

(「草樹」代表)

く」と話されました。

続いて児玉源太郎顕彰会の岡田
幹矢副会長から特選の3人に賞状
と賞金、入選の10人、佳作の18人
に賞状と記念品が手渡されました。



入賞作品を講評しながらお話しされる
坪内稔典さん

「周南人物列伝7 明治維新150年と児玉源太郎」を開催して

周南市美術館学芸員 森 重 祥 子

「周南人物列伝展」は、周南市にゆかりのある人物をテーマ別に紹介している展覧会です。2012年（平成24）度から始まり、今回で7回を数えます。第1回は

「産業・経済編」として浅田義一郎、野村恒造、岩井勝次郎、高橋亀吉を、第2回は「社会事業家・女性教育編」として毛利勅子、島地黙雷、赤松照瞳・安子夫妻、宮本重胤を、第3回は「文学者編」として与謝野鉄幹、青木健作を取り上げました。第4回は児玉源太郎が生まれた場所に「児玉源太郎生誕の地」公園が整備されたことを記念して特別編「児玉源太郎―幕末の徳山藩」を開催しました。第5回は「画家編」として朝倉震

陵、大庭学僊、岸田劉生、前田麦二、河上大二を、昨年第6回は「文化人編」として久保白船を取り上げました。

今年2018年（平成30）はご承知のとおり明治維新150年で、周南市美術館でもそれに関連した展覧会として、この「人

物列伝展」で周南の幕末維新と児玉源太郎を取り上げることとし、9月13日から24日まで開催したところです。

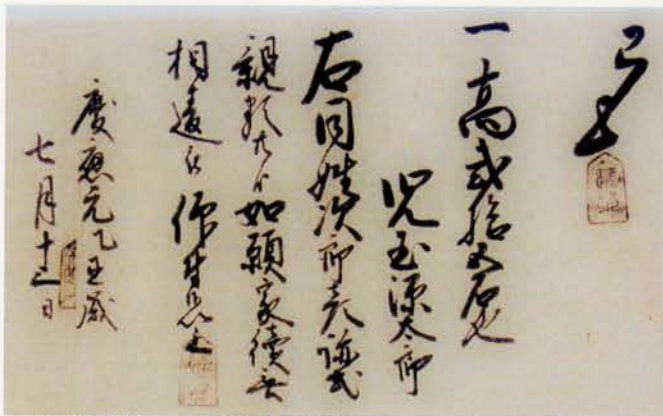


展覧会チラシ

展覧会開催にあたり最初に考えたのは「明治維新はいつまでなのか」ということでした。これについては様々な考え方があります。西南戦争が終わった1877年（明治10）や、長いものでは大日本帝国憲法が公布された1889年（明治22）までというところもありますが、今回の展覧会では、ペリーが浦賀に来航した1853年（嘉永6）から戊辰戦争が終結した1869年（明治2）までの期間を取り上げることになりました。16年間です。しかしこの短かい時間に日本は劇的な変化を遂げ、現

在の社会の原型が築かれました。そしてこの期間は1852年（嘉永5）に誕生した児玉源太郎が子供から青年へと成長していく時でもあります。

しかしこの動乱期、源太郎（当時はまだ幼名の百合若を名乗っていました）はまだ幼く、展示した資料で源太郎関係の最初ものは1865年（慶応元）7月13日「児玉源太郎への家督相続仰付」でした。この時源太郎は14歳で元服し児玉家の家督を相続、徳山藩に出仕するようになりました。これからいよいよ日本の歴史と源太郎の歩みがリンクして行きます。



「児玉源太郎への家督相続仰付」 1865年（慶応元）7月13日

源太郎が家督を継いだ年、徳山藩は兵制改革を行い、従来の砲術、騎射を廃止し西洋式銃陣を採用しました。また練兵塾を開設、源太郎は入塾を命じられました。源太郎の軍人への道はこの時に定められたと言って良いでしょう。

また徳山藩内ではこの時期、山崎隊をはじめ様々な隊が結成されました。第二次幕長戦争（四境戦争）が始まった1866年（慶応2）8月には朝気隊が結成され、源太郎は加入を命じられました。1868年（慶応4・明治元）8月には新たに献功隊が編成され、源太郎は二番中隊半隊司令士として戊辰戦争に従軍しました。

1869年（明治2）5月、箱館戦争を最後に戊辰戦争は終結し、今展での周南の幕末維新はこの時点で終了としましたが、源太郎はこの時18歳、その人生は始まったばかりです。

今回の展覧会では最後に「児玉源太郎の活躍」と題したコーナーを設けました。「西南戦争」「台湾総督」「日露戦争」「児玉源太郎と徳山」と、彼の生涯から4つの事跡をピックアップして紹介したほか、源太郎の人となりとその姿から見ていただこうと、年代を

追って肖像を展示、その中で今回初めて源太郎の騎馬像を2体そろって展示しました。



左奥・北村西望作、右手前・伝大熊氏廣作の児玉源太郎騎馬像

北村西望作の1体と大熊氏廣が制作したといわれる1体です。軍服を着て馬に跨がるというほぼ同じ形態ですが、表情の違いなど、並べてみて初めて気づくこともあり、興味深い展示になったと思います。

「周南人物列伝展」で児玉源太郎を取り上げたのは、今回で2度目となります。今後も新資料などがあれば、こうした展覧会を通じて紹介できればと考えています。

明治維新150年 史跡探訪バスツアー

永瀬昌宏

明治維新150年の節目にあたり、「明治維新百五十年回想と顕彰」周南実行委員会の主催で、山口県東部ゆかりの地を訪ねるバスツアーが9月23日に開催されました。

それぞれの事績を通して周防部の果たした役割を学ぶもので、児玉源太郎顕彰会会員を含めて36人が周南市美術館に集合。はじめに美術館の「周南人物列伝7 明治維新150年と児玉源太郎」を鑑賞、参加者は学芸員の森重祥子さんの解説を聞きながら児玉源太郎の写真彫刻をはじめ、錦



周南市美術館の「明治維新150年と児玉源太郎」

絵、書画などに見入っていました。児玉源太郎に思いを馳せながらバスに乗り込み、光市の伊藤公資料館へ。最初に伊藤博文が韓国皇太子と大磯の海岸を散歩する貴重な姿を拝見、「伊藤ドラマ第4編」として展示では伊藤博文の大礼服や愛用のキセル、旧千円札の第1号券、書簡などを目にしました。資料館の隣には平成3年に復元された茅葺の生家、産湯の井戸もありました。

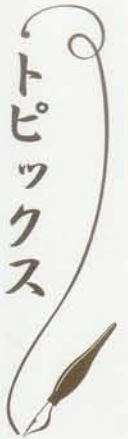


伊藤公資料館の「伊藤ドラマ第4編」

る月性展示館・清狂草堂に到着。「骨を埋むる何ぞ帰さん墳墓の地人間到る処青山有り」で知る人ぞ知る月性です。西郷隆盛と錦江湾に入水した月照と同時代ということもあって残念ながら間違っても覚えられていることがあります。討幕の論のなかった長州藩に勤皇討幕思想を説き、「海防僧」の異名で詩僧としても名をあげた月性の豪放磊落な一生に感じ入りながら、最後の目的地岩国市の吉川史料館「吉川経幹展」へ。第1次長州征伐で幕府と長州藩との仲介役で奔走し、第2次長州征伐では芸州口の防備に尽くした12代岩国藩主・吉川経幹の生涯を2期に分けて展示、私たちが拝見したのは後期の展示でした。第2次長州征伐での攻防から明治への移り変わりを書状や資料からたどっていき

ました。伊藤博文、月性、吉川経幹、そして児玉源太郎。それぞれの展示から感じたのは、もっとたくさんの人に彼らの活躍を知ってもらいたいというスタッフの熱意でした。児玉源太郎顕彰会としてもさまざまな角度から彼の生涯に光をあててさらなる活動を、と身が引き締まる、そして楽しい旅でした。

(児玉源太郎顕彰会幹事)



源太郎が見た空

児玉神社と夜空に輝く星をとらえた1枚の写真に足が止まりました。作者は周南市河東町の西原佳男さん。2年前のこの季節に長時間露光で撮影した300枚の写真をパソコンで合成して仕上げました。題して「源太郎が見た空」。



11月10日と11日の2日間、周南市美術博物館で開催された周南文化協会の周南市民芸術文化祭写真真連盟の会場で展示、西原さんは同連盟会長です。

児玉神社は児玉源太郎を祭神として大正12(1923)年、児玉家旧宅跡に創建。東隣には児玉が学んだ藩校・興讓館(現・徳山小学校)があります。澄み切った夜

空を仰いで源太郎が見た夢は何だったのでしょうか。

足跡を訪ねる台湾ツアー

第4代総督として民政長官に後藤新平を登用、台湾の近代化への道を開いた児玉源太郎。明治39(1906)年4月まで8年余、陸軍大臣、内務大臣、文部大臣などをしながら台湾総督を務めました。

今年(2018)は明治維新150年。山口銀行徳山支店の「はってんクラブ」がこれを記念して「児玉源太郎の足跡をたどる」視察旅行を6月1日から3日間の日程で実施。ご厚意で19人の仲間に加えていただき、台湾総統府(台湾総督府)や台北賓館(旧迎賓館)、児玉源太郎が建立した臨濟護国禪寺などを訪ねました。この模様は地元紙の日刊新周南に6月から7月にかけて「台湾紀行」として5回連載しました。

顕彰会では来年3月初めに台湾ツアーを計画、遅くとも年明けにはその内容をお知らせします。ご期待ください。

(児玉源太郎顕彰会事務局長 西崎博史)

編集室より

『日露戦争実記』で児玉を追う

花田 佳子

日露戦争時の雑誌を拝見する機会を得ました。博文館発行『日露戦争実記』です。当時の児玉の姿を追いました。同誌の発刊は日露戦争勃発後間もない頃で、最終刊は戦いが終わった年の暮れ近くでした。『博文館五十年史』に、「定価一冊金十銭であったが、本館創立以来空前の売行を呈し、第一号は十万余部を発行した」とあります。またこの雑誌の非常な盛況に伴い『日露戦争写真画報』が発行されています。

今回拝見した内の一冊は、国立国会図書館にも無いことがわかりました。貴重です。今後も様々な史料に出会い、児玉の姿を追いたいものです。そして少しずつ紹介できればと思います。

(元周南市立中央図書館館長)

長州藩三家老首実検の図

有田 順一

『明治維新150年と児玉源太郎』展。当地ゆかりの資料のなかで「長州藩三家老首実検の図」はご覧になりましたか。

元治元(1864)年、第一次

幕長戦争で長州藩は幕府軍に包囲されてしまいます。長州藩は反撃できず、11月三家老の首を差し出すことで停戦を進めました。それを知らせたのがこの図(瓦版)です。討幕派の無念が伝わってきます。しかし、12月には高杉晋作が拳兵し恭順派から主導権を奪います。このあと快進撃を続け、時代は明治へ、と。その時、長州藩は歴史の真つ只中にいたのです。

(周南市美術博物館館長)

公に生きるとは

西崎 博史

児玉源太郎顕彰会の活動は3年目に入りました。昨年「藤園忌」行事を始め、明治150年の今年(2018)は顕彰会が中心となって「明治維新百五十年回想と顕彰」周南実行委員会を発足、4月に毛利ゆかりの祐綏神社奉祝祭、9月に周南市美術博物館展覧会と連動させたバスツアーを実施、12月には明治の酒と食を再現した宴を催します。

顕彰会であればこそその企画です。決断力と洞察力に長けた児玉源太郎が評価されるのは55年の生涯を捧げ、明治日本の国づくりに貢献したことです。世のため人のため、公に生きた人生を、私たちに問いかけます。

(周南文化協会会長)